

2017 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会



# 授業改善アンケート調査結果

## 1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2014年度前期から授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更し、2016年度より、2011年に開設されたグローバル30人間科学コース（以下、G30）でのアンケートも開始した。さらに今年度からは、講義科目以外の演習、実習、研究についても KOAN 上でのアンケートを開始した。実施期間は以下の通りである。

2017年度前期アンケート回答期間：2017年7月4日～8月7日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、講義科目 72.8%（2016年度前期：70.0%）、講義以外の科目 22.2%であった。

2017年度春夏学期授業改善アンケート 講義科目  
対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	6	380
	行動系科目	12	298
	社会・人間系科目	13	362
	教育系科目	11	247
	G 共生系科目	8	194
大学院科目	共通科目	3	23
	その他	37	280
G30 科目		17	112
計		107	1896

回収数 1896 / 受講登録者数 2605 = 回収率 72.8%

講義科目以外(演習、実習、研究)

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通	2	4
	行動学	35	12
	社会学	23	43
	教育学	25	30
	グローバル人間学	7	0
大学院科目	共通科目	7	40
	行動系科目	43	36
	社会・人間系科目	46	67
	教育系科目	48	88
	G 共生系科目	38	41
G30 科目		2	0
計		276	361

回収数 361 / 受講登録者数 1622 = 回収率 22.2%

- ※1 基礎科目は、行動・社会・教育・G 共生系科目に割り振られている。  
 2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

## 2. 授業改善アンケートの結果

今回より、全科目をアンケート実施対象科目とし、講義科目については従来通りマークシート方式を、講義以外の科目（演習、実習、研究）については KOAN 上にて回答する方式を採用した。2017 年度春夏学期（セメスター制の導入により、今年度より前期・後期に代わり、春夏学期・秋冬学期に変更）の授業改善アンケートの回収率は 72.8%と、2016 年前期の 70.0%から 2.8% 上昇した。これは、集計方式を変更した 2014 年以来過去最高の値である。今回より実施された KOAN 上による回答率は、22.2%であった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、4.08 であり、学生の授業への満足度は例年通り高い。学系別集計によると、とりわけ英語コース（G30）の学生のうち 50.0%が「非常に良かった」と回答しており、授業満足度が突出して高いことが分かる（大学院を除く他系の同項目の平均値は 27%ほど）。講義科目以外の満足度は、学部平均 4.34、大学院前期平均 4.18、大学院後期平均 4.33 であった。大学院前期の平均がやや低いのは、共通演習科目において「非常に良かった」と答えた割合が 20.5%と、他の科目に比べ極端に低かったことが要因あると考えられる。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 83.9%（2016 年前期：77.8%）と、昨年度よりも 1 割以上多くの学生が授業に参加しており、2014 年前期の 87.5%には届かないものの、徐々に上昇傾向にあるといえる。また、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に対して、「ほとんどなし」と答えたのは 40.2%と、例年の 5 割よりも下回っており、こちらも徐々に改善傾向にあるといえる（2015 年前期：53.7%/後期：64.4%、2016 年前期：41.8%/後期：50.64%）。学系別集計によれば、教育系が 49.8%と大幅に改善された（2016 年前期：60.1%）のに対し、G 共生系は 58.2%（2016 年前期：65.5%）とやや改善されたとはいえ、依然として学系内でもっとも自習時間が少ない。問 4 の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は 3.69 であり、ほぼ例年と同じ数値を示した（2016 年前期：3.78）。

また、問 3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が 65.6%（2016 年前期：71.2%）であったが、他方で「やや易しい」との回答が 25.2%と前年度より 6.2% 上昇しているのが目を引く（2016 年度前期：19.0%）。シラバスについて問 5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対しては 55.0%が「そう思う」と回答しており、2013 年以降徐々に改善傾向にある。問 6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「そう思う」の割合は 60.0%（2016 年前期：59.5%）、問 8 の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は 3.98（2016 年前期：3.95）、問 9 の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は 3.91（2016 年前期：3.89）と、いずれの項目においても例年と変わらず、適切な授業運営が実施されていると判断される。

今回より KOAN 上で実施した講義以外の科目の回答率の低さが問題である（22.2%）。アンケートを実施した教員の多くが指摘するように、低い回答率の平均点によって授業の問題点や改善

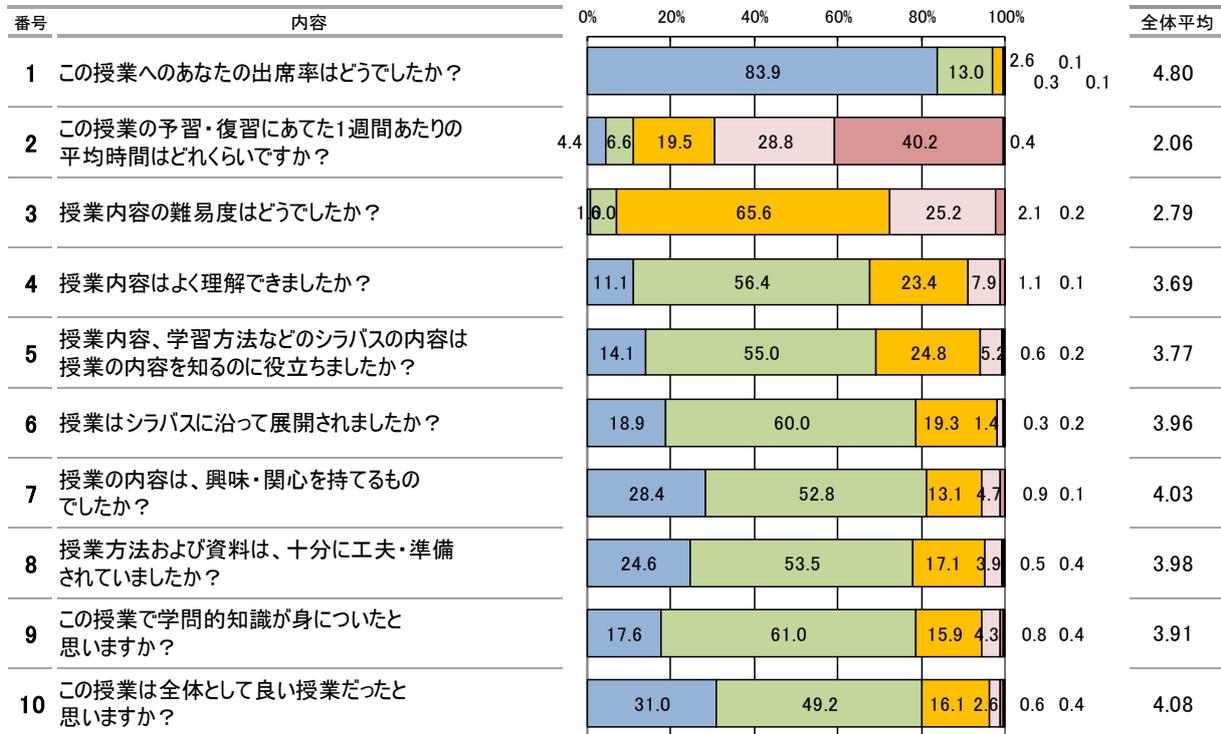
点を特定するのは困難である。ただし、今回の回収率は、2014年以前の紙媒体で実施していた時期と比べてもそれほど違いはない（2013年前期23.4%、後期24.3%）。さらに、アンケート回答期間中に回答していない学生には、アンケート終了3日前に自動的にリマインダーのメールが送られるなどの対策はすでに行っており、これに加え、科目担当教員からの声掛け、授業内にてアンケートに回答させるなどの工夫によって、回収率については十分改善可能であると思われる。今後、引き続き回答率の向上に向けて一層の協力を願いたい。

以下より、2017年度前期の授業改善アンケートの結果の詳細を示す。

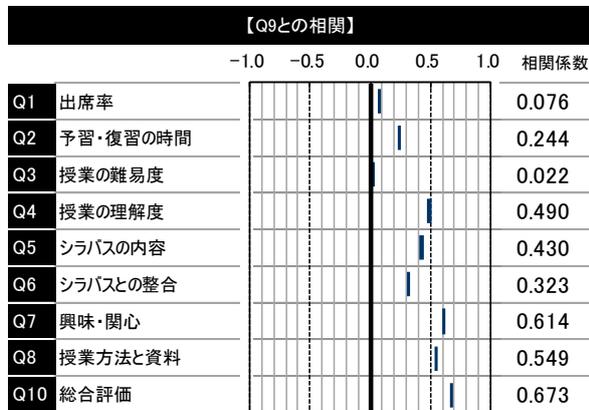
※学系別集計（p. 6）については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・G共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

<h1>全体集計</h1>	履修者数	2605
	回答数	1896
	回答率	72.8%

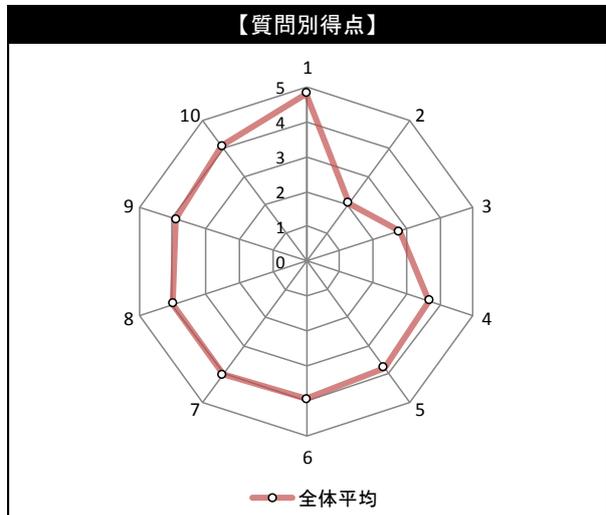
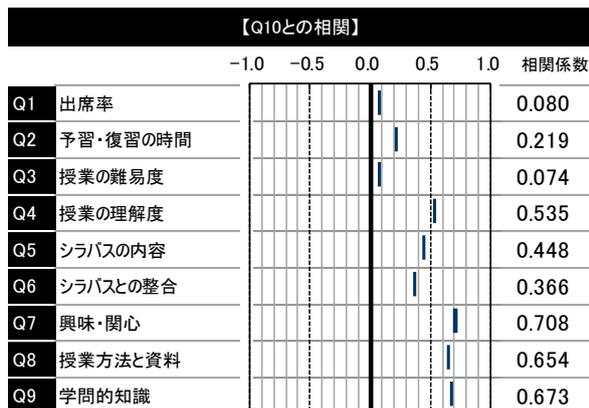


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	不明 (無回答を含む)
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)



## 学系別集計

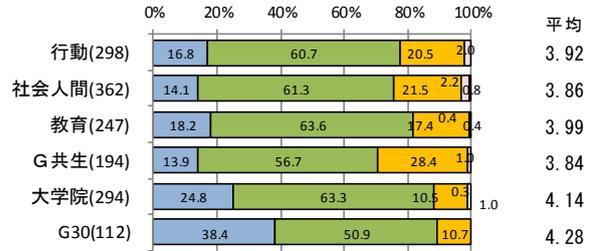
※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4~9	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良くなかった	かなり 良くなかった	

### 1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



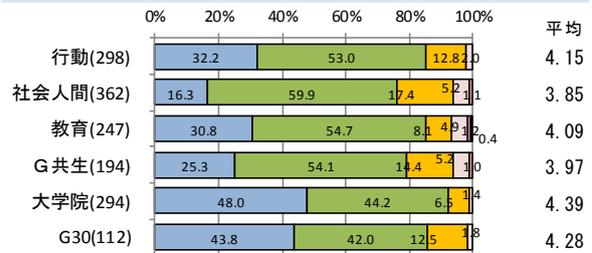
### 6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



### 2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



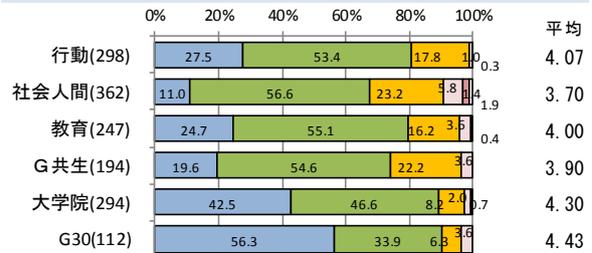
### 7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



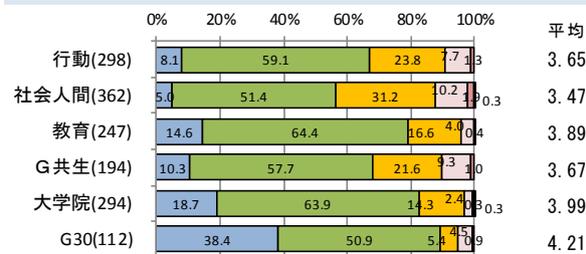
### 3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



### 8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



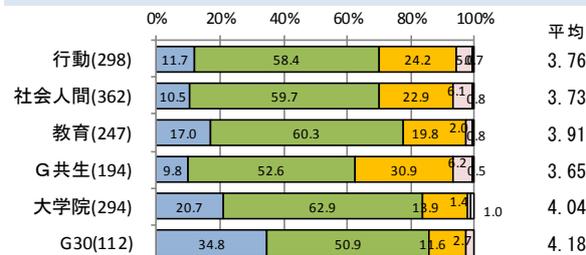
### 4. 授業内容はよく理解できましたか？



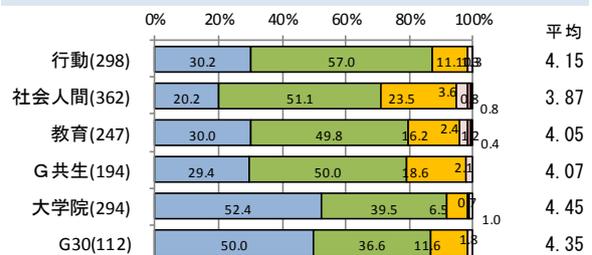
### 9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



### 5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



### 10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



### <満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 107 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 52 科目であり、平均値 4.10 を上回ったのは 35 科目であった。

### 2017 年度前期講義科目

#### 満足度上位の科目一覧

#### 【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	実践的文化交流 I	13	4.92
2	多文化共生社会論 II	14	4.86
3	比較社会学	10	4.50
4	日本教育史	10	4.50
5	社会データ科学	28	4.46
6	学校経営学	41	4.46
7	臨床心理学 II	19	4.42
8	教育工学 II	19	4.42
9	教育社会学	14	4.36
10	社会心理学	54	4.35

#### 【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	現象学的な質的研究特講	10	4.90
2	人格心理学特講	10	4.70
3	教育文化学特講	16	4.69
4	多文化医療通訳概論	14	4.64
5	学校経営学特講	13	4.62
6	共生社会論特講 III	10	4.60
7	安全行動学特講 I	11	4.55
8	宗教社会学特講	15	4.47
9	政治経済の人類学特講	10	4.40
10	社会心理学特講 I	27	4.33

**【G30】**

	科目名	有効回答数	問 10  平均值
1	Peace Operations and the Global Community	11	4.91
2	Global Poverty and Development	10	4.00

講義科目以外(KOAN 実施分)

学部	授業数	履修人数	回答者数	回答率	設問:1	設問:2	設問:3	設問:4	設問:5	設問:6	設問:7	設問:8	設問:9	設問:10	
G30_演習・実習	1	1	0	0.0%	平均点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
					合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					回答数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G30_研究	1	4	0	0.0%	平均点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
					合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					回答数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グローバル人間学_卒業演習・研究	5	13	0	0.0%	平均点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
					合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					回答数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グローバル人間学_演習・実習	2	32	0	0.0%	平均点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
					合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					回答数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共通_演習・実習	2	25	4	16.0%	平均点	4.75	3.25	3.25	4.25	4.25	4.50	4.25	4.25	3.75	4.50
					合計	19	13	13	17	17	18	17	17	15	18
					回答数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
教育学_卒業演習・研究	7	33	9	27.3%	平均点	4.67	4.22	3.33	3.78	3.44	3.67	4.44	3.89	4.22	4.22
					合計	42	38	30	34	31	33	40	35	38	38
					回答数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
教育学_演習・実習	18	117	21	17.9%	平均点	4.52	2.95	3.19	3.95	3.71	3.76	4.14	3.81	4.19	4.10
					合計	95	62	67	83	78	79	87	80	88	86
					回答数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
社会学_卒業演習・研究	11	35	3	8.6%	平均点	5.00	2.67	3.33	4.00	3.67	3.67	4.33	3.67	4.00	3.67
					合計	15	8	10	12	11	11	13	11	12	11
					回答数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
社会学_演習・実習	12	154	40	26.0%	平均点	5.00	3.45	3.38	4.00	3.75	4.15	4.38	4.20	4.18	4.20
					合計	200	138	135	160	150	162	175	168	159	168
					回答数	40	40	40	40	40	39	40	40	38	40
行動学_卒業演習・研究	12	43	3	7.0%	平均点	5.00	4.33	3.33	4.33	3.67	3.67	4.67	4.67	4.67	5.00
					合計	15	13	10	13	11	11	14	14	14	15
					回答数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
行動学_演習・実習	23	123	9	7.3%	平均点	5.00	2.44	3.11	3.89	4.00	4.00	4.56	4.11	4.00	4.44
					合計	45	22	28	35	36	36	41	37	36	40
					回答数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

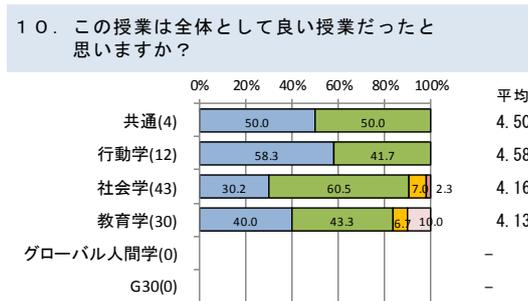
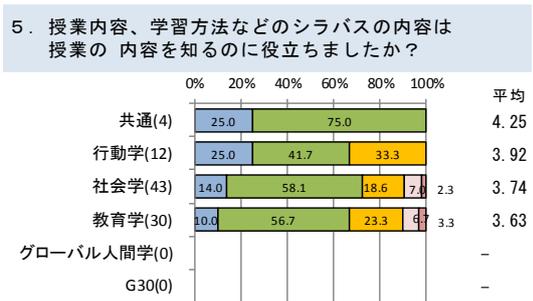
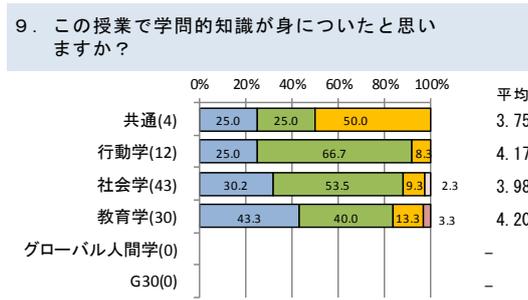
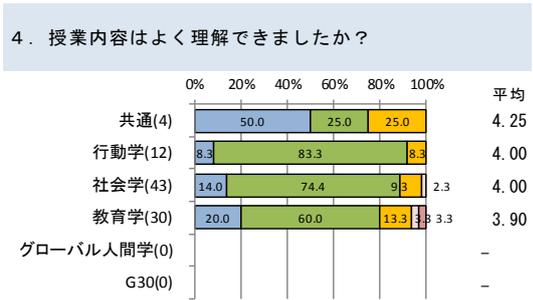
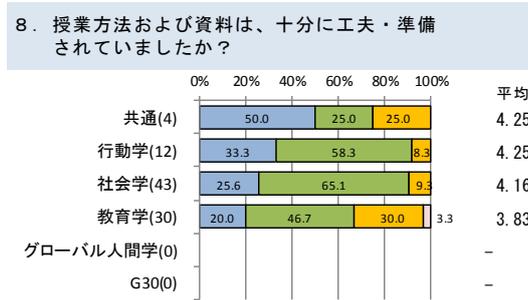
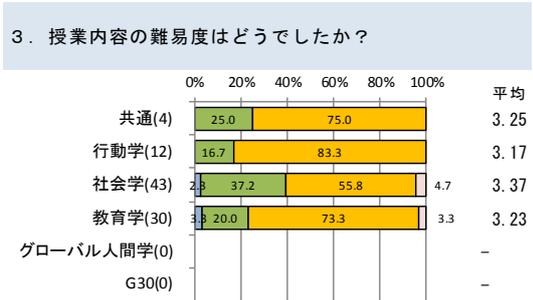
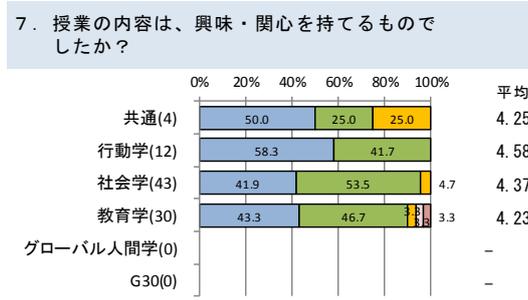
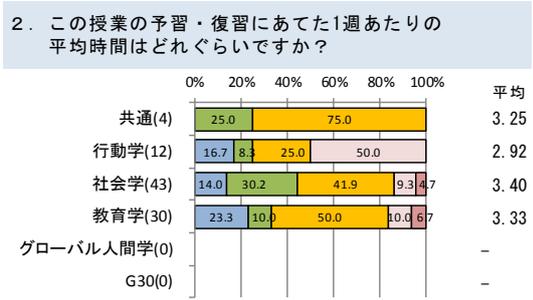
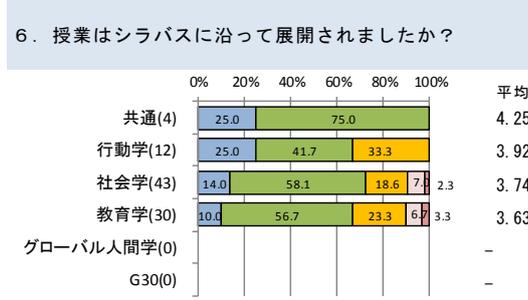
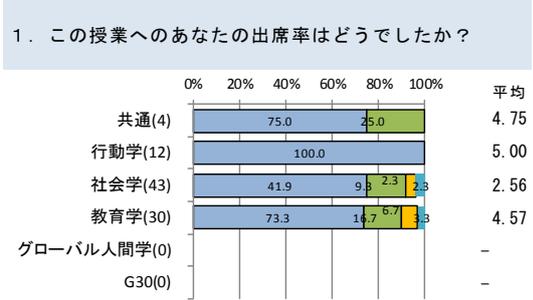
大学院前期					設問:1	設問:2	設問:3	設問:4	設問:5	設問:6	設問:7	設問:8	設問:9	設問:10	
大学院前期_共通_演習・実習	6	133	40	30.1%	平均点	4.83	2.43	3.03	3.61	3.49	3.77	3.66	3.92	3.64	3.64
					合計	193	97	118	137	136	147	139	149	142	142
					回答数	40	40	39	38	39	39	38	38	39	39
大学院前期_教育_演習・実習	20	178	51	28.7%	平均点	4.86	2.49	3.16	3.61	3.61	3.67	4.24	3.88	4.00	4.20
					合計	248	127	161	184	184	187	212	194	204	214
					回答数	51	51	51	51	51	51	50	50	51	51
大学院前期_教育_研究	11	76	14	18.4%	平均点	4.79	3.36	3.00	3.71	3.69	3.69	4.08	3.86	4.00	4.29
					合計	67	47	42	52	48	48	53	54	56	60
					回答数	14	14	14	14	13	13	13	14	14	14
大学院前期_社人_演習・実習	17	109	38	34.9%	平均点	4.54	3.68	3.47	3.71	3.79	4.08	4.26	4.26	4.16	4.39
					合計	168	140	132	141	144	151	162	162	158	167
					回答数	37	38	38	38	38	37	38	38	38	38
大学院前期_社人_研究	12	44	14	31.8%	平均点	4.93	3.79	3.50	3.71	3.79	3.93	4.15	4.29	4.07	4.07
					合計	69	53	49	52	53	55	54	60	57	57
					回答数	14	14	14	14	14	14	13	14	14	14
大学院前期_行動_演習・実習	12	45	12	26.7%	平均点	5.00	4.00	3.25	3.91	4.08	4.08	4.33	4.09	4.08	4.42
					合計	60	48	39	43	49	49	52	45	49	53
					回答数	12	12	12	11	12	12	12	11	12	12
大学院前期_行動_研究	10	32	10	31.3%	平均点	5.00	4.20	3.30	3.70	4.40	4.33	4.50	4.44	4.20	4.40
					合計	50	42	33	37	44	39	45	40	42	44
					回答数	10	10	10	10	10	9	10	9	10	10
大学院前期_G共_演習・実習	12	90	10	11.1%	平均点	5.00	3.10	3.00	3.89	3.80	3.80	4.10	4.00	4.22	4.40
					合計	50	31	30	35	38	38	41	40	38	44
					回答数	10	10	10	9	10	10	10	10	9	10
大学院前期_G共_研究	8	59	9	15.3%	平均点	5.00	3.33	3.11	4.22	4.22	3.75	4.11	3.89	4.33	4.11
					合計	45	30	28	38	38	30	37	35	39	37
					回答数	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9

大学院後期					設問:1	設問:2	設問:3	設問:4	設問:5	設問:6	設問:7	設問:8	設問:9	設問:10	
大学院後期_共通_演習・実習	1	1	0	0.0%	平均点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
					合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					回答数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院後期_教育_演習・実習	10	47	14	29.8%	平均点	4.71	3.36	3.00	4.07	3.86	3.77	4.21	4.07	4.29	4.14
					合計	66	47	42	57	54	49	59	57	60	58
					回答数	14	14	14	14	14	13	14	14	14	14
大学院後期_教育_研究	7	36	9	25.0%	平均点	4.56	3.67	3.22	4.11	3.89	3.88	4.33	4.11	4.38	4.33
					合計	41	33	29	37	35	31	39	37	35	39
					回答数	9	9	9	9	9	8	9	9	8	9
大学院後期_社人_演習・実習	9	42	10	23.8%	平均点	4.60	3.80	3.10	4.50	3.80	4.00	4.70	4.30	4.50	4.70
					合計	46	38	31	45	38	40	47	43	45	47
					回答数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
大学院後期_社人_研究	8	27	6	22.2%	平均点	4.33	4.00	2.83	4.33	4.50	4.50	4.67	4.17	4.50	4.83
					合計	26	24	17	26	27	27	28	25	27	29
					回答数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
大学院後期_行動_演習・実習	11	22	8	36.4%	平均点	4.25	3.25	2.88	3.75	3.75	3.88	3.88	4.29	3.63	3.88
					合計	34	26	23	30	30	31	31	30	29	31
					回答数	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8
大学院後期_行動_研究	10	21	6	28.6%	平均点	4.33	3.17	2.83	3.17	3.33	3.33	3.67	3.83	3.67	3.83
					合計	26	19	17	19	20	20	22	23	22	23
					回答数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
大学院後期_G共_演習・実習	10	40	11	27.5%	平均点	4.64	4.18	3.18	4.27	3.73	3.55	4.09	4.18	4.36	4.45
					合計	51	46	35	47	41	39	45	46	48	49
					回答数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
大学院後期_G共_研究	8	40	11	27.5%	平均点	4.27	4.18	3.09	4.27	4.00	4.00	4.36	4.45	4.18	4.55
					合計	47	46	34	47	44	44	48	49	46	50
					回答数	11	11	11	11	11	11	11	11	10	11

## 学系別集計

※グラフ内数字は回答率(%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4~9	全く そう思う	そう思う	どちらか 書えない	そう 思わない	全く 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良かった	良く なかった	

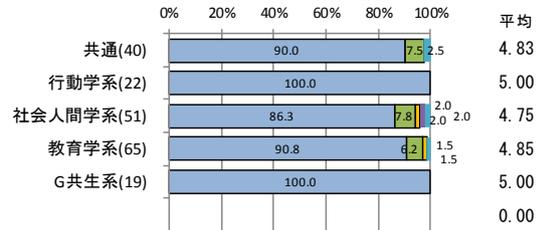


## 学系別集計

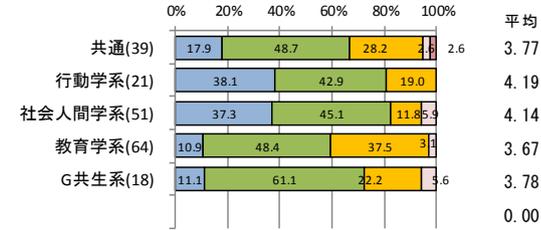
※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間 ~3時間	30分 ~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く そう思う	やや思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全く 思わない	不明 (無回答を 含む)
質問10	非常に 良かった	良かった	普通	あまり 良くなかった	良くなかった	

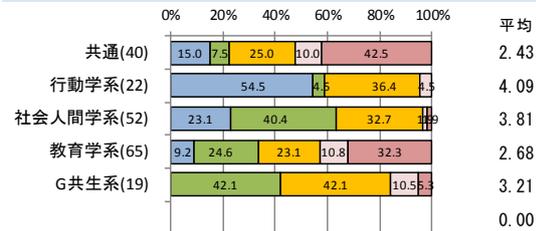
### 1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



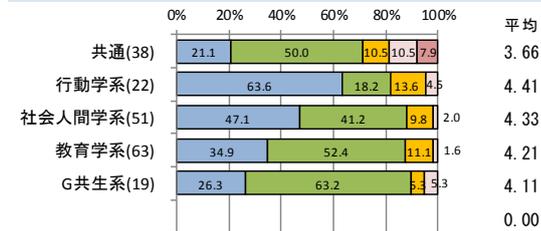
### 6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



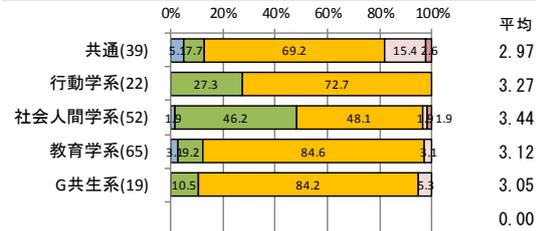
### 2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



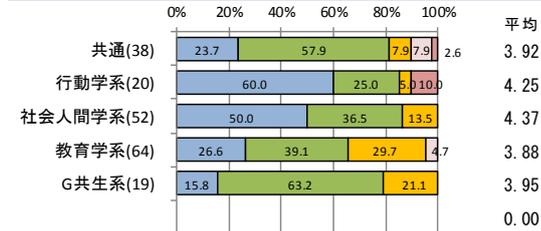
### 7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



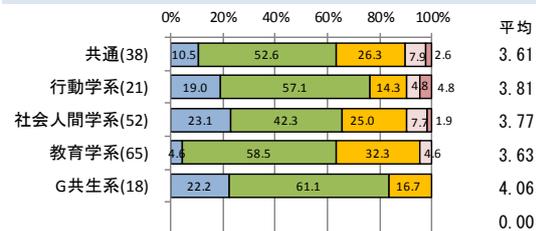
### 3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



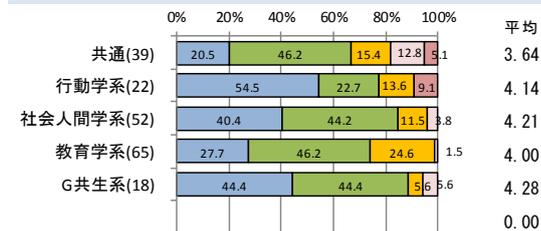
### 8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



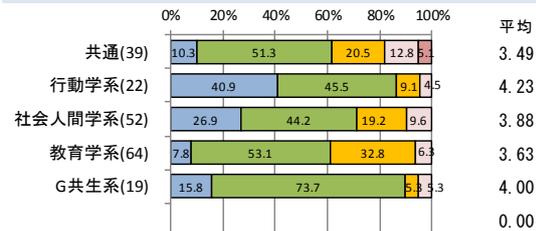
### 4. 授業内容はよく理解できましたか？



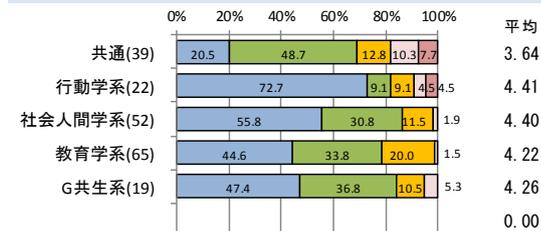
### 9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



### 5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



### 10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？

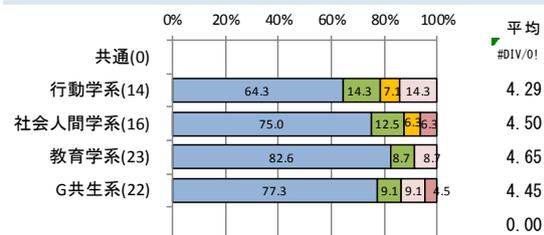


## 学系別集計

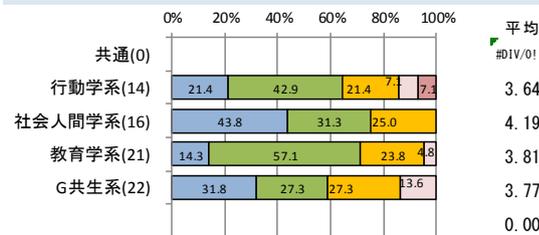
※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらか 書えない	そう 思わない	全く 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良かった	かな り 良かった	

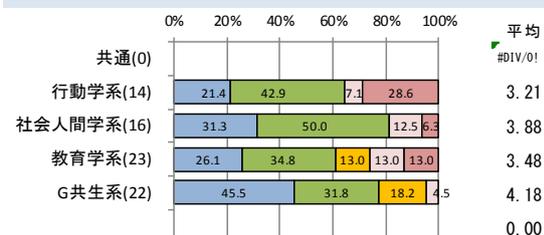
### 1. この授業へのあなたの出席率はどうか？



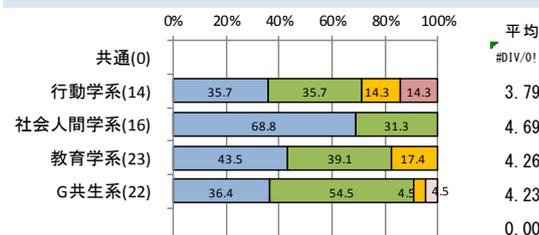
### 6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



### 2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



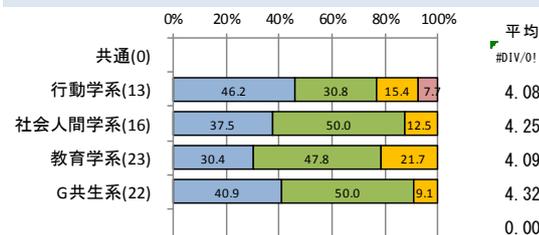
### 7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



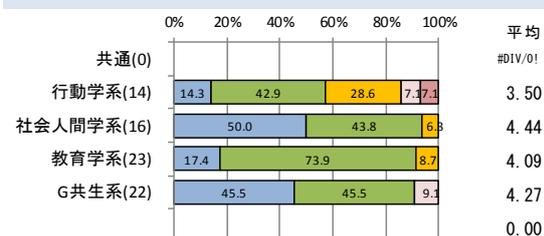
### 3. 授業内容の難易度はどうか？



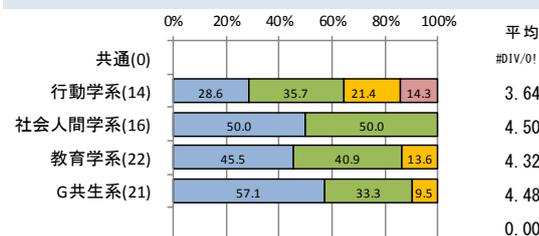
### 8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



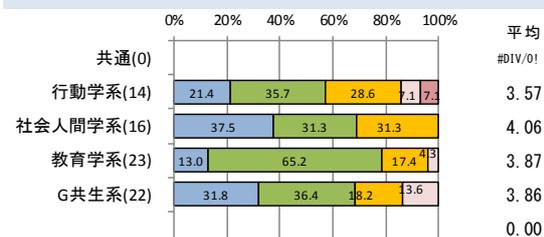
### 4. 授業内容はよく理解できましたか？



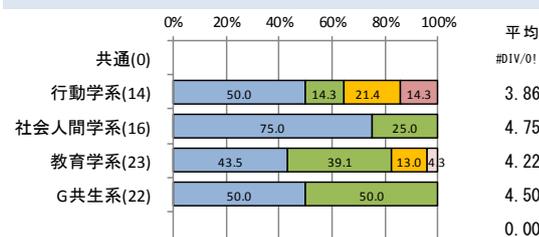
### 9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



### 5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



### 10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



### 3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

赤井 誠生	基礎心理学特別研究 I(B)
コメント ⇒理解しやすく、内容に深みのある講義をするようにしたいと考えております。	
足立 浩平	推測統計科学, 行動統計科学特講 II, 行動統計科学演習 I, 行動生態学実験実習 II, 行動統計科学特定演習 I, 行動統計科学特定研究 I, 行動統計科学特別演習 I, 行動統計科学特別研究 I
コメント ⇒統計学のような数学を基礎にした学問は、「細部がわからなくても、気にしない」ことが大切です。各統計解析法の目的を大雑把に把握できていれば、理解していると考えてよいです。	
渥美 公秀	Disaster Prevention and International Cooperation, 卒業演習, ボランティア行動学演習 I, 共生行動論特別演習 I, 共生行動論特別研究 I
コメント ⇒G30 講義では、比較的高い評価を得ていることを嬉しく思っているが、今年度は、予復習にかけた時間が少ないように思う。今後も担当することになれば、例年通り新たな話題(新しく発生した災害)も挿入していくが、もう少し、リーディングアサインメントに対応した議論の時間を増やすことを考えたいと思う。そのことで、リーディングアサインメントを読むことの重要性が伝わって、予復習に時間を割いてもらえたらとよいと感じた。	
稲場 圭信	共生社会論特講 III, 理論社会学演習 I
コメント ⇒(共生社会論特講 III) おおむねアンケート結果の通りの講義だったと思います。 今回は知覚障がい者が受講していたため、全体に配慮し、パワーポイントの使用や紙資料の配布を控えた一方で、丁寧にゆっくりと講義を行いました。また、受講生の意見を聞くなど双方向の授業形態をとりました。 結果としては、学問的知識が身についた 4.20、全体として良い授業 4.60 だったのでよかったと思います。	
井村 修	臨床心理学 II, 臨床心理基礎実習 I, 臨床心理査定演習 I, 障がい児(者)心理学特講 I, 臨床心理学特定研究 I, 臨床心理学特別研究 I
コメント ⇒他分野の学生にも理解できるよう配慮いたします。受講者も臨床心理学に関する参考図書を読み基礎知識をつけてください。	
臼井 伸之介	卒業演習, 安全行動学演習 I, 人間行動学実験実習 II, 安全行動学特定演習 I, 安全行動学特定研究 I, 安全行動学特別演習 I, 安全行動学特別研究 I
コメント ⇒前期は学部、大学院ともに演習、実験実習のみの担当で、いずれも履修者は少なかったのですが、回答者はそれぞれ 1 名のみでした。最後の時間に履修者には回答するように口頭で伝えたのですが、次回からは最終時間の際に少し早めに授業を終え、その場で KOAN にアクセスさせて、回答を求めるようにしたいと思います。	

遠藤 知子	比較福祉論 II, 比較福祉論特講 II
<p>コメント</p> <p>⇒講義形式の授業ですが、今後はグループディスカッションの時間を増やすなどして授業にメリハリをつけ、学生が参加しやすいように工夫します。講義を聞くだけでなく学生同士が互いに意見を交わすことで講義内容の理解を深め、身近な社会課題との接点を導き出せるように工夫したいと思います。</p>	

老松 克博	卒業演習, 臨床心理学演習 I, 臨床教育学実験実習 II, 臨床心理実習 I, 臨床心理学特定演習 I, 臨床心理学特別演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒今回は、学部で3つ、大学院で3つの演習等の科目を担当しました。アンケートの回答率がいずれも三分の一以下だったため、評価の真の内容ははっきりつかめませんが、おおむね平均以上の評価はいただけたようです。ただ、科目によっては、予習がしにくかったり、授業の工夫が足りないと感じられたりしたことがわかりましたので、今後の改善に向けて参考にさせていただきます。</p>	

岡田 千あき	生涯教育学, 生涯教育学特講, 国際社会開発論 I, 卒業演習
<p>コメント</p> <p>⇒コメントいただいた皆さん、ありがとうございました。今年は受講者数が多く、授業の進め方を変更せざるを得ませんでした。しかし、多くの皆さんが意欲的に取り組んでいる様子がうかがえ、理解度も高かったかと思います。今年も3名の外部講師の方に講演をしていただきました。実技を取り入れるなど新しい試みもしましたがいかがでしたでしょうか？今後も引き続き理解度が高まる授業の内容を工夫したいと思います。</p>	

岡部 美香	卒業演習, 教育人間学演習 I, 教育人間学特定演習 I(B), 教育人間学特定演習 I(B)
<p>コメント</p> <p>⇒学部の教育人間学演習 I が、他と比較して数値が低い。これは、学部と大学院の合併授業で、大学院に照準を合わせ過ぎた結果であると推測される。来年度からは、合併授業を解消し、学部と大学院それぞれ授業を開講することにしたので、その結果でまた授業内容を判断したい。</p>	

川端 亮	現代社会の課題, 宗教社会学, 宗教社会学特講, 社会調査演習 I, 社会学理論特定演習 I, 社会調査特定演習 I, 社会学理論特定研究 I, 経験社会学特定研究 I, 社会調査特別演習 I, 経験社会学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒ (現代社会の課題)</p> <p>2 回生に社会・人間学系の学問内容を紹介する目的もあり、またそれぞれの分野をある程度深く探求するという目的のある科目であるため、多くの先生に登壇してほしいという要望と深く話してほしいという要望の両立が難しいところです。できるだけ幅広い内容を扱うように努めたいと思います。</p> <p>また、出席率はよいのですが、予習・復習があまりされておらず、この点については継続して工夫していきたいです。</p> <p>⇒ (宗教社会学・宗教社会学特講)</p> <p>できるだけ毎週、簡単な予習の課題を出したのですが、アンケート結果を見るとそれほど時間をかけてやってもらっていないことがわかり残念でした。特に学部生の予習時間が少ないので、次回は課題の出し方をもっと工夫したいと思います。</p>	

河森 正人	共生の理論と実践, 地域創成学 I I, 地域創生論特講 I, グローバル人間学実験実習 II, 地域創生論特定演習 I(A), 地域創生論特別演習 I(A), 地域創生論特別研究 I(A)
<p>コメント</p> <p>⇒まず今年度からはじまった「共生の理論と実践」であるが、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れるために、クラスをふたつに分けて実施することにした。このことについて、「教員と受講生の関係がより身近になる」という意見と、「もう一方のクラスの授業にも参加したかった」という意見があった。共生学科目の教員のあいだであらためて検討し、最善の方法を見出したい。「地域創生論特講 I」および「地域創成学 II」であるが、今年度から地域創生論研究分野の3人の教員で実施することにした。次年度もこの方式を踏襲するが、3人のテーマの統一性についてより注意を払うことにしたい。</p>	

吉川 徹	社会データ科学, 社会データ科学特講, 卒業演習, 社会環境学実験実習 II, 人間科学基礎実習, 社会データ科学特定研究 I, 社会データ科学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒授業の評価点はすべてにおいて高く、まずまず納得していただいていると思います。</p> <p>1名の大学院生から「自論の正当性を主張しすぎ。自論についての問題点や課題など、客観性を取り入れた説明をしたほうがよいのではないか」とのコメントをいただきました。その通りだと思います。当該授業の進め方については、このコメントのように、懐疑心を抱いていただくきっかけとすることを狙って、当該領域におけるリサーチクエストを示し、それに対する私自身の取り組みを説明しています。折に触れて「聞き手の方で正誤については相対化してください」と言いながら説明しているので、多くの受講生は了解しているものと思います。</p>	

釘原 直樹	卒業演習, 社会心理学演習 I, 人間行動学実験実習 II, 社会心理学特定演習 I, 社会心理学特定研究 I, 社会心理学特別演習 I, 社会心理学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒社会心理学特定演習 I と社会心理学特研究 I に関して、6～7名ほどの受講者のうち、回答者は1名である。その回答者の評価が低い。日頃、配慮しているつもりではあるが、指導についてさらに検討する必要がある。</p>	

権藤 恭之	心理学実験
<p>コメント</p> <p>⇒評価を見ると、全般的には授業内容には満足しているようだ。難易度に注目すると易しいという意見が多いようだ。内容の理解の項目では、どちらとも言えないという回答も相当数あり、理解できないまま、安易にレポートを作成している学生がいることが伺える。これは、資料を丁寧に作成しすぎているからかもしれない。次年度以降は、難易度をあげる対応をとるようにしたい。</p>	

佐々木 淳	卒業演習, 臨床心理学特講 I, 臨床心理学研究法特講
<p>コメント</p> <p>⇒私が担当した「臨床心理学特講 I」「臨床心理学研究法特講」は、臨床と研究の準備段階にある M1 前期に開講するため、知識中心の完全な座学で構成すると物足りないし、かといって実践的な点はある程度の臨床経験がないと理解ができないため、教えるのが難しいことをいつも実感している。</p> <p>回答してくれた院生からは、予想以上の評価が得られていることを確認することができたが、毎週あるケースカンファレンスやインターカンファレンスやそこでの気づきと連動させて議論を深める方向性を今後も強めていきたい。</p>	

佐藤 眞一	高齢者行動論, 臨床死生学・老年行動学特講 I, 卒業演習, 臨床死生学・老年行動学演習 I, 人間行動学実験実習 II, 臨床死生学・老年行動学特定演習 I, 臨床死生学・老年行動学特定研究 I, 臨床死生学・老年行動学特別演習 I, 臨床死生学・老年行動学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒高齢者行動論(学部)、臨床死生学・老年行動学特講 I(大学院)の講義は、3名の教員によるオムニバス授業であった。教員は互いに内容が重ならないように打ち合わせてから授業を行ったが、昨年同様、一部の授業内容が他の授業と重複する部分があるとの指摘があったので、さらに改善したい。アンケート結果はおおむね平均値以上の高評価であり、昨年度からは改善している。ただし、本年度も学生の予習・復習の時間が少なかった。図書で紹介やコメントペーパーへの記入を行い、次の授業でそれに対するコメントをすることによって復習を促したが、未だ不十分のようなので、今後は、課題を示すことも必要かもしれない。</p>	
澤村 信英	卒業演習, 国際協力学特定演習 I, 国際協力学特定研究 I, 国際協力学特別演習 I, 国際協力学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒演習や研究について、このような量的な指標をもとに授業改善をめざすのは、非常に難しいことであることを再認識した。このような科目は、受講生の日々の取り組みが授業づくりに影響を与え、回答率の低い中で平均点を相互に比較しても、授業改善につながるような適切なコメントを行うのは困難であると思える。</p>	
三宮真智子	卒業演習, 教育コミュニケーション学演習 I, 臨床教育学実験実習 II, 教育コミュニケーション学特定演習 I, 教育コミュニケーション学特定研究 I, 教育コミュニケーション学特別演習 I, 教育コミュニケーション学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒・予習・復習時間の少なさが目立つため、今後の工夫・改善を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の難易度はちょうどよいとのことであるので、今後もこの水準を保つことにしたい。</li> <li>・演習科目においては、受講者の理解度や議論の深まり具合により、あえてシラバスを流動的に適用した。</li> <li>・アンケートへの回答率の低い授業科目があり、今後はより徹底した指示が必要であることを痛感した。</li> </ul>	
篠原 一光	卒業演習, 応用認知心理学演習 I, 人間行動学実験実習 II, 応用認知心理学特定演習 I, 応用認知心理学特定研究 I, 応用認知心理学特別演習 I, 応用認知心理学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒演習、実験実習等は例年通り順調に実施できた。特に変更すべき点はないと考える。</p>	
志水 宏吉	学校社会学, 教育文化学特講, 共生社会論特講 I, 教育環境学実験実習 II, 教育文化学特定研究 I, 共生社会論特定演習 I, 共生社会論特定研究 I, 教育文化学特別研究 I, 共生社会論特別演習 I, 共生社会論特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒教育学系の方で開講している大学院の授業(教育文化学特講)について、外国人留学生も多いため、英文講読の方法についていくつか工夫をしたが、それが功を奏したようで、学生たちの評価は例年よりも高くなったと評価できる。今後も、学生たちのニーズに合った授業を提供できるようにしていきたい。</p>	
Schwentker Wolfgang	卒業演習, コンフリクトの文明学特定演習 I, 比較文明学特定演習 I, 比較文明学特定研究 I, コンフリクトの文明学特別演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒授業アンケートの学生からのコメントで「古典を読むにはもっと時間をかけるべきだと思う」や「議論の時間をもっと増やすべきだ」と指摘がありました。今後の授業にいかしたいと思います。</p>	
ズグスタ リチャード	地域知識論 I
<p>コメント</p> <p>⇒次回は、もう少しわかりやすく興味深い授業にしたいと思います。</p>	

鈴木 広和	文明動態学, 文明動態学特講, 地域創成学 I, 卒業演習, 現代人間学演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒(文明動態学、文明動態学特講、地域創成学 I に共通のコメントです。)</p> <p>アンケート結果は、授業のさらなる改善に向けて活用させていただきます。</p>	

園山 大祐	比較教育制度学, 教育制度学特講, 卒業演習
<p>コメント</p> <p>⇒今年度は春学期の授業として週 2 コマ連続となり、講読の授業としてはテンポが速く、準備がたいへんだったのではないかと心配していましたが、受講生はレポートまでしっかり勉強いただきました。一部大学院では映像をみってもらうなど、具体的な海外の事情についてイメージも持っていただく時間をとりました。来年度も積極的に映像も取り入れた授業を導入できればと思います。また参考文献を読む時間なども持てるよう、レポートの締め切りを延長できればと思います。貴重なアンケート結果ありがとうございました。</p>	

高田 一宏	現代日本の教育問題, 卒業演習, 教育文化学演習 I, コミュニティ教育学特講, 教育文化学特定演習 I, 教育文化学特別演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒(現代日本の教育問題について) 授業内容・方法に対する評価は、ほぼ全体平均と同じだったが、「予習・復習時間」はやや低く出た。複数の担当者によるオムニバス形式の授業であったためであろう。毎回のテーマの有機的なつながりを検討する必要がある。また、アンケートの結果には反映されてないが、ゲストスピーカー (NPO の活動家) の講演を高く評価した学生が多かった (自由記述)。「現場」の生の「声」に出会う機会は今後できるだけ設けていきたい。</p>	

千葉 泉	多文化共生社会論 II, 共生社会論特講 II, 卒業演習
<p>コメント</p> <p>⇒できるだけ、受講生のモチベーションや興味に寄り添い、授業を組み立てる努力をしてきましたが、まだ不十分なところがあると思います。来年度に関しては、この点に留意して、より受講生の学習意欲を促進する授業を実施できるように、努力したいと思います。</p>	

辻 大介	卒業演習, コミュニケーション社会学特講
<p>コメント</p> <p>⇒院講義「コミュニケーション社会学特講」の授業評価は、まずまずといったところでしょうか。私自身は今年度の授業には手応えを感じるところがあったので、来年度も基本的に同じ方式で行なうつもりですが、授業時間外に副読本(より基礎的な文献)の講読を課すなどして、もう少し理解度を高めるようにしたいと思います。</p>	

中川 敏	卒業演習, 人類学特定演習 II, 人類学特定研究 I, 人類学特別演習 II, 人類学特別研究 I, 科学技術と文化特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒コメントを参考にして、授業を改善していきたい。</p>	

中澤 渉	教育社会学, 教育社会学特講
<p>コメント</p> <p>⇒昨年より、事前学習をする学生が増えたのは好ましい。例年、内容を詰めすぎることや難しすぎるという点について厳しい評価があったので、今年はかなり内容を厳選したが、意外に「やや易しい」という回答が例年になく多かった。その他は概ね良好な反応だったと思うので、授業内容について少し工夫したい。</p>	

中野 良彦	行動形態学, 生物人類学特講 I, 卒業演習, 行動形態学演習, 行動生態学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒生物人類学研究分野が開講する科目は、生物学や解剖学などの自然科学的な内容が多く、研究室に所属する以外の学生にはとっつきにくく、行動形態学および生物人類学特講の授業は、自ずと講義中心に知識の紹介を中心とせざるを得ない。また、内容への興味の持ち方に個人差が大きく、そのため授業のスピードについても、速いというものもあれば、丁度良いというものもいた。</p>	

中山 康雄	科学哲学, 科学哲学特講, 卒業演習, 現代人間学演習 I, 科学哲学特定演習 I, 科学哲学特定研究 I, 科学哲学特別演習 I, 科学哲学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒講義科目「科学哲学（特講）」については、小レポートに書かれた質問に対して授業で答える形式を取り入れた授業を行ったが、授業の理解度について改善が見られたと感じる。</p> <p>卒業演習も含めた学部の演習科目については、学生の要望に応える形でテーマを選び、高い出席率を保てた点よかったと思う。</p> <p>大学院の演習については、学生の要望に答える形でテーマ設定をしているが、専門性が高いために、前期課程の学生の中にはよりていねいな指導を望むものもいるようである。アンケートを参考にして、学生の要望に答えるような授業を形成するとともに、大学院の授業では学力の強化につながる授業を目指していきたい。</p>	

西森 年寿	教育工学 II, 教育工学特講 II, 卒業演習
<p>コメント</p> <p>⇒講義については、今年は例年より受講者が少なかったもので、私のやりやすさもあって、若干スコアが良かったような気がします。ただ、全体的にはやはり以前と同じ傾向の結果となりました。そのあたり意識して、来年、シラバスや課題について、いくつか試してみたいと思います。</p> <p>講義以外の授業についてははじめてこうした調査の結果をもらいましたので、新鮮で、いろいろ考え直してみようかなという気持ちになりました。</p> <p>回答ありがとうございます。欲をいうと、自由記述ももっともらえると助かります。</p>	

入戸野 宏	認知心理生理学, 基礎心理学特講 I, 卒業演習, 基礎心理学特定演習 I, 基礎心理学特定研究 I (B), 基礎心理学特別演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒昨年度の授業改善アンケートの結果を受けて、講義科目の授業内容見直しを行った。その結果、特に学部生の理解度の評価が向上した。また、「学問的知識が身についたと思う」という設問に対する回答は、学部生・大学院生ともに、全体平均よりも高く、新しい知見を積極的に紹介した成果が現れたといえる。来年度は、理解度をいっそう高めるために、さらに教材を工夫したい。</p>	

野坂 祐子	教育心理学 II, 卒業演習, 臨床教育学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒関心をもって受講されたようでよかったです。予習や復習は本来指示されてやるものではないので、受講生に主体的に取り組んでもらいたいと思いますが、こちらでも課題の提示など工夫してみます。</p>	

野村 晴夫	臨床心理面接特講 I
<p>コメント</p> <p>⇒おおむね及第点の印象ですが、回収率が低いので、今後はその向上によって、授業のさらなる改善を図ります</p>	

檜垣 立哉	卒業演習, 現代人間学演習 I, 現代思想特定演習 I(A), 共生の人間学特定演習 I-a, 共生の人間学特定研究 I, 現代思想特別演習 I(A), 共生の人間学特別演習 I-a, 共生の人間学特別研究 I
-------	---

コメント

⇒今回は大学院も学部も演習科目だけであったのでまとめてコメントします。

基本的にシラバスが余り役にたっていないということがあり、それについて改善を考えます。

難易度について比較的易しいという方向性だったのは解釈がむずかしいですが、もし理解を促進していたのであればよいとおもいますし、方や外国語での講読などもう少しとりいれるべきなのかとおもいました。

演習なので授業の工夫はなかなか難しいのですが、しかしパワポを巧くとりいれプレゼンの練習などをする／してもらうなど工夫したい。

藤岡 淳子	人格心理学特講, 教育心理学演習 I, 教育心理学特定研究 I, 教育心理学特定演習 I, 教育心理学特別演習 I, 教育心理学特別研究 I
-------	--

コメント

⇒参考にさせていただきます。

藤川 信夫	人文学と人間科学, 教育思想史, 教育思想史特講, 卒業演習, 臨床教育学実験実習 II, 教育人間学特定演習 I(A), 教育人間学特定研究 I(A)
-------	--

コメント

⇒人文学と人間科学: 2 度行った試験につき、準備できるようシラバス上で、明確な指示をすべきであった。

遅刻の扱いについて、シラバスに明記すべきであった。予習を要する部分をもっと増やすべきであった。異分野の教員間での討議は好評であったので、次年度もより充実させたい。

教育思想史/教育思想史特講: グループディスカッションの内容を講義内容の理解をさらに深める方向で工夫すべきであった。

前馬 優策	キャリアデザイン概論
-------	------------

コメント

⇒担当したキャリアデザイン概論では、15 人の履修者のうち、4 人しか回答してくれていなかった。授業自体は土曜集中で 5 月に終了していたため、アンケートの実施時期が 7 月であることを考えると、回答率が低くても仕方が無いように思う。回答してくれた 4 人は出席率も高く、他の項目を見てもおおむね満足度が高い授業であったことがうかがえる。全体の回答からは、やはり回答率の低さが気になった。回答率を上げる何らかの手立てが必要だと考える。

三好 恵真子	人間環境論 II, 環境行動学特講 III, 卒業演習, 環境行動学特定演習 I, 環境行動学特定研究 I, 環境行動学特別演習 I, 環境行動学特別研究 I
--------	---

コメント

⇒今学期、授業を受講して頂き、有り難うございました。今年度も、様々な学系、他部局からも受講者がおり、大変刺激的な授業を展開することができましたこと、感謝しております。

授業は、例年通り講義と議論を毎回セットにしていたため、授業を受け身的に聴くだけでなく、他の方と知識を共有したり、別の角度からの知見を得たりする上でも良かったのではないかと思います。

本授業は、学部・大学院合併で、必ずしもご自身の専門ではない部分もあったかもしれませんが、研究の着眼点、研究方法、複眼的に物事を捉えるポイントなどがいずれの専門にも役立つようにと資料は論文形式にしておりますので、その後もお役立て頂ければ幸いです。

最終回の講評会で各人からのコメントを直接伺い、受講者のそれぞれが自分の専門にも引きつけつつ、関心を深めてくださったことが分かり、私自身も大変参考になりました。今後に活かしていく所存です。

牟田 和恵	卒業演習, コミュニケーション社会学特定演習 I, コミュニケーション社会学特定研究 I, コミュニケーション社会学特別演習 I, コミュニケーション社会学特別研究 I
-------	--

コメント

⇒演習授業で、回答者数が少ないので一概には言えないが、今後の授業の参考にしていきたい。

村上 靖彦	現象学的な質的研究特講, 現代人間学演習 I, 人間科学学際研究特講, 現代思想特定演習 I(B), 現代思想特定研究 I, 現代思想特別演習 I(B), 現代思想特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒人間科学学際研究特講については、これからもどのような内容と形式にするのか検討する必要があると痛感しております。試行錯誤のなかでの2年目でしたが、大学院生向けの導入の授業の位置づけについて検討する必要があります。</p> <p>他の科目については、概ね狙い通りの効果を得られたので良かったと思いますが、授業ごとの目的をもう少し明確にできるように気をつけます。</p>	

山中 浩司	文化社会学, 文化社会学特講, 卒業演習, 文化社会学特定演習 I(A), 文化社会学特定研究 I(A), 文化社会学特別演習 I(A), 文化社会学特別研究 I(A)
<p>コメント</p> <p>⇒ (文化社会学)</p> <p>学生からの意見や質問を多くとりすぎた印象もあり、理解度が低下している点が気になります。発言する学生がある程度限られているために、発言しない学生にとってやや冗長な授業となったかもしれない。講義と意見交換とのバランスを再考し、学生の理解を向上させる工夫を考えたい。トピックについても来年度から再構成を検討する。</p> <p>⇒ (文化社会学特講)</p> <p>評価については例年と変わらないが、来年度から内容を再検討してより専門的な問題に取り組みたい。</p>	

八十島 安伸	自然科学と人間科学, 感覚生理学, 行動生理学特講 I, 卒業演習, 行動生理学演習 I, 行動生態学実験実習 II, 行動生理学特定演習 I, 行動生理学特定研究 I, 行動生理学特別演習 I, 行動生理学特別研究 I
<p>コメント</p> <p>⇒ (行動生理学特講 I)</p> <p>(全般) 動物でもある我々ヒトがどのような感覚系の機能を用いることで日常を生活しているのか、また、感覚における機能の破綻がどのようにして病気などに現れるのかを生物学・心理学・神経科学の側面から紹介する科目でした。概ね高い評価をいただいたので、この方針は今後も続けたいと思います。また、実験が好評なので、できるだけ講義中にも実験を行うようにしたいと思います。</p> <p>(改善案) もう少し、レポートのフィードバックを早く戻せるように努力します。</p> <p>(評価方法) 読書レポートを課しましたが、全体的によくできていました。レポートから題材をとって受講生みんなで考える機会もあればいいのかとも考えます。</p> <p>⇒ (自然科学と人間科学)</p> <p>(全般) この科目は、今年度からの新設科目でしたので、提供する教員側からはどのような科目内容や授業進行の仕方が受講生にとって望ましいのかを模索する年でした。受講生からのさまざまな意見やリクエストがありましたので、来年度はそれらを踏まえて授業を改善できるようにしたいと思います。内容については、高校まで文系の教育を受けてきた方を想定していますので、人によっては易しすぎる場所もあるかとも思います。その方針は大きくは変更しない予定です。そうとはいえ、たとえ教科書やインターネットをみれば書いてあることでも、よくよく考えてみると、謎や疑問があったり、自明ではなかったり、説明が不足していたり、難しい問題であることを考えてもらいたいです。</p> <p>(改善案) 改善方法としては、教員通しの座談会などを増やすなどや、内容についても再考を考えます。</p> <p>(評価方法) 読書レポートを課しましたが、全体的によくできていました。また、まとめレポートも、内容が非常に濃いものが多数あり、とても感心しました。来年度も評価方法については、読書レポートとまとめレポートを用いる予定です。ただし、読書レポートについての採点やフィードバックについて、今年度よりももっと多くを受講生に戻す必要を感じますので、読書レポートの形式や締め切り等については再考する予定です。さらに、これらのレポートから題材をとって受講生みんなで考える機会もあればいいのかとも考えます。</p> <p>⇒ (感覚生理学)</p> <p>(全般) この科目は、動物でもある我々ヒトがどのような感覚系の機能を用いることで生活しているのか、感覚上のどんな機能の破綻が病気や心身に影響するのかなどを生物学・心理学・神経科学の側面から考えていく科目ですが、概ね、良い評価を得られたので、その方針で今後も進めたいと思います。</p> <p>(改善案) もう少し、レポートのフィードバックを早く戻せるように努力します。</p> <p>(評価方法) 読書レポートを課しましたが、全体的によくできていました。レポートから題材をとって受講生みんなで考える機会もあればいいのかとも考えます。</p>	

Robert Scott North	比較社会学, 比較社会学特講, Comparative Theories of Society and Culture, 文化社会学演習 I, 文化社会学特定演習 I(B), 文化社会学特定研究 I(B)
<p>コメント</p> <p>⇒こちらが担当した講義についての回答率が低くて、意味の少ないアンケートとなって、残念です。OUSSEP (短期留学プログラム) の学生が排除されているような気がします。今回の参加者の3分の1程度は、その OUSSEP の学生だったので、彼らの意見も入れてくれればよかったとおもいます。それにしても、回答してくださった学生の評価がまよかったですので、来年度にも、同じような授業計画を立てて行こうと思います。</p> <p>I'm disappointed that the response rate for this lecture was so low that it reduces the meaning of the survey. It seems as if the OUSSEP students were excluded from this survey. Although I think their opinions are reflected in a separate survey, I think it would be good to include their responses in this one, too, as they made up about one third of the class this year. Nevertheless, overall, the students' evaluation was reasonably positive, so I will plan a similar course for next year.</p>	

綿村 英一郎	社会心理学, 社会心理学特講 I
<p>コメント</p> <p>⇒社会心理学および社会心理学特講 I について、たくさんコメントをくださり、ありがとうございます。</p> <p>なお、ネタはただのネタですので、誇張した内容です。「これは冗談です」とのテロップを出すと白けてしまうと思ひ、あたかも真実であるように、「学習内容をわかりやすい例とともに印象に残すこと」を第一の目的にお話しておりました。とはいえ、不快に感じられたのであればお詫び申し上げます。印象に残ったのであれば何よりです。</p>	